連載

ふるさと Something NEWS

第47回

「ふるさと」というアフォーダンス（上）

――新たな居場所の確保とアウトカム

一般社団法人 洸楓座
一般社団法人 efco.jp
代表理事 佐藤 建吉

▼日本における変革

このシリーズも終盤になってきた。まとめを今回と次回で行いたい。「ふるさと」は、場所であり、人のきづなであり、経済がそれを後押しする。それは「暮らし」をつくる。現在、地方も東京も、新型感染症コロナ禍が最優先の社会状況であり、すっかり暮らしが変容した。この災禍への対応として「新しい生活様式（ニューノーマル）」が喚起され、リモートワークやオンライン会議などが確かに浸透し、暮らしに変革が起っている。

日本の改革は、これまでも自主的ではなく外国の関わりが必要のようであった。歴史としては、①隣国の朝鮮や中国からの仏教の伝来、②その後300年置いた米国による開港による明治維新、③さらにその約90年後の太平洋戦争の敗戦と占領、が挙げられる。次第に、間隔が短くなっているが、④今回のコロナも挙げられる。この間、江戸開府、関東大震災、東京オリンピック（1964年）、そして東日本大震災などの出来事も国内事情を大きく変えた。

今回のコロナ禍も、後述のように、日本の暮らし全般に大きな影響を与えている海外由来の事例といえる。暮らしやビジネスが変わっている。その中には、これまでもその前兆は見られたが、正当化されてはいなかったものも多い。いまその興味深い情報が次々と行き交っている。そうした一面を、「ふるさとSomething」として取り上げたい。

いままでの大学評価＆これからの大学評価

成果（アウトカム）とは？

	具体的内容
インプット（投入、入力）	教育研究活動等を実施するために投入された財政的、人的、物的資源をさす。
アクション（活動、行動）	教育研究活動等を実施するためのプロセスをさす。計画に基づいてインプットを動員して特定のアウトプットを産み出すために行われる行動や作業をさす。
アウトプット（結果、出力）	インプットおよびアクションによって、大学（組織内）で産み出される結果をさす。
アウトカム（成果、効果）	諸活動の対象者に対する効果や影響も含めた結果をさす。学生が実際に達成した内容、最終的に身につけたもの、刊行された論文の効果や影響などである。

▼「ふるさと」をアフォーダンスとしてとらえる

ここで視点として考えたいのは、「居場所」である。居場所は、世代や学習や仕事によって異なる。また余暇としての居場所もある。コロナ禍でも居場所は必要である。「ふるさと」は、心の居場所であったり、かつての居場所であったりする。居場所が伝えてくれることを、《アフォーダンス》（＝その想いを感じさせる実態（土地）や郷愁）としてて議論したい。アフォーダンスは、それ自体が何かしらの情報を提供し、魅力があることで、「ふるさと」や「居場所」もそれに当たる。

▼ICTが変革の基軸

前述のように、変革には背景が係わる。今回の変革には、ICT（情報コミュニケーション技術）という背景があり、その特徴が活かされている。ICTは、従来のアナログ社会からデジタルに社会への変革をつくり出す背景であったが、それに駆動力を与えたのがコロナであった。それは老若男女を問わず〝インパルス〟として迫った。インパルスは、ある時、瞬間的に起こる外乱（＝衝撃）をいう。今回は、そのインパルスが、波動のように何度も影響した。例えが良くないが、津波の第一波、第二波、のように。

その変容と、同時にその影響について例示したい。

【1】政府の対応の不慣れ

変革に最も不慣れなのが政府であり、その対応である（ことが明らかにされた）。初動や情報把握と適応施策には課題が残る。その施策には、国民の犠牲と心ある《自助》によって状況がつくられている。「できる状況づくり」を施策とされていない。

【2】ICTの効用

ITCの時代、ケータイ&インターネット&SNSは、コロナ禍においても基盤として働いた。日本の国民はガイドラインという施策があれば、その適用にはすぐ慣れる特質をもつ。ICTを有効利用することが適時となる。適用とアプリケーションの導入が施策の要となる。

インターネットによる求人情報

【3】リモートワーク

20年くらい前に、「職住近接」が唱えられたことがあったが、東京一極集中を看過&歓迎したので、遠隔地からの鉄道通勤が主流として定着し、通勤距離は100キロメートルにも及ぶ。コロナ禍で歓迎されたのがリモートワークであった。これは、【2】のICTが後押しした。必須の適用であった。

【4】オンライン&リモート会議

前項と同様のムーブメントが、オンライン会議やリモート会議である。筆者の所属する団体は平均年齢75歳超の高齢者の組織であり適応が遅れたが、その効果に気づき、まさに常用される兆しである。

【5】大学の変革

現在、多くの大学は、リモートで講義やゼミも行われており、その在り様が問われている。リモート講義は、放送大学でも行われていたもので実績はあるといえる。また星稜大学のような通信制大学も実績と存在感をつくってきた方式である。

変革は大学や学位に対する価値が求められる。その国際シンポジウムもコロナ禍の9月に開催された。そこでは、《アウトカム》と呼ばれる成果が重視され、そして、大学は地域との関わりが求められる。同時に、内容は国際水準であることが求められる【註1】。

【6】若者の参加

ICTの活用は、若者には入りやすい。コロナ禍でも現在ばかりでなく、アフターコロナともいわれるように将来に目を向けなければならない。本コラムでもオンライン会議で行われた「学生わたしたちの役割」について紹介した【註2】。そこでは、❶ロケーションフリー、❷ジェンダーフリー、❸レジストレーションフリーの三つのフリーがニューノーマルにおけるトレンドではないかと、筆者はコメントした。

ICTは、学齢には無関係で、高校生や中学生も発信できる。最近、長野県の小学生の著作『料理大好き小学生がフランスの台所で教わったこと』が話題になっている。

【7】ふるさと就労

密接回避のコロナ対策は、地方や田舎への関心が向けられた。仕事や雇用、そして経済の背景が必要である。が一方、幸福や楽しみ、心身共に健康に生きることへの意識変革も生まれた【註3、4】。そうした情報を提供するのも、ICTである。第一次産業の募集サイト、村が丸ごとホテルなどの新企画が話題となっている【註5、6】。

【8】田舎に暮らす

若い夫婦が田舎に暮らす、地方のシェアオフィスで仕事し、エコフュチャーセンターを構築する。これは、筆者の一般社団法人efco.jpの基礎概念であった。いま、その必要性が現実となった。

【9】されど東京

一方で、「東京」に拘る人や企業もある。それは行政も含まれる。afterコロナも、《自助》イメージが強い。確かに、「東京」の価値は大きいが、地方とのアンバランスの解消がコロナを回避する機会となる。「されど東京」は、米国大統領の固執に一致する態度かもしれない。

【10】くらしとエネルギー／資源

本紙の主題であるエネルギーも、新時代に対応した変革が求められている。「新エネルギー」「自然エネルギー」「再生可能エネルギー」の時代である。同時に、自動車も電気自動車やハイブリッド自動車に替わらないといけない。中国では、世界戦略のテスラに迎え撃つように、国産の電気自動車が開発され普及している。それは、日本の軽自動車仕様に倣うK-Carで、セカンドカーとして（また一部ではファーストカーとしても）、エコカーとして爆発的な需要を得ている。第二の同クラスのEVが開発され、来年の発売であるという。

▼なぜアフォーダンスか？

《アフォーダンス》は、知覚心理学が教える現実（リアリティ）の認識である。それは、現在をとらえるときの基礎的な背景ともなる。それは、経験を超える新しい感覚の養成や獲得ともなる。

《アフォーダンス》にも、対象があり、それはモノであり、場所が関わる。そのモノには、実態があり、見たり触れたり感じたりすることが出来る。一般にアフォーダンスは、《認識》であり、暮らしの容易さをつくる《エコデザイン》に適用されたりする。例えば、説明なしで行動を導くデザインであり、ドアを開閉する時のノブの回す行動を考えずにできるようにするなどである。ドアという《モノ》が、その行為を自然に導く《アフォード》する。

コロナ禍を、with コロナといい現実とするが、それはafterコロナにするための導きであるはずである。都市と田舎は《場所》であり、そこに《ふるさと》や《居場所》という《モノ》がある。そのものが、アフォードする魅力を、ICTが媒介として伝えることができる。それは、密集や集中が最大の価値であった「東京」からの回避という側面があらゆる変革を活かせる《チャンス》でもある。それは、別の言い方をすれば、「できる状況づくり」の宝庫でもあり、いまこそ知恵と実践を通して《アウトカム》をつくらなければならない。具体例は、次回へ続報としたい。

【註1】「大学評価文化の定着」（独法）大学改革支援・学位授与機構サイトから引用、https://www.niad.ac.jp/n_shuppan/webtv/image/no9_hyoukabuntv.pdf

【註2】本コラム第39回「オンライン会議でふるさと快活―三つのフリーが時代のトレンド」第165／166号（2020年8月24日刊）http://www.kofuza.jp/images/nen_2020_39.pdf

【註3】本コラム第30回「コロナ危機に思うこと――都市・田舎・自然・人間」第155号（2020年4月6日刊）http://www.kofuza.jp/images/nen_2020_30.pdf

【註4】本コラム第32回「Stayinghome」第157号／第158号（2020年5月4日／5月11日刊）http://www.kofuza.jp/images/nen_2020_32.pdf

【註5】北海道の転職・就職・適職求人サイト「ジョブキタ」https://www.jobkita.jp/ichijisangyo/

【註6】小菅 源流の村「700人の村がひとつのホテルに」https://nipponiakosuge.jp/dining/